

Ⅱ 「市民と行政の協働に関する調査」回答集計

選択回答の集計と自由回答内容の一覧をまとめました。自由回答部分については、ご記入いただいたものをそのまま掲載しておりますが、回答者が明らかにわかってしまう記述など、一部変更させていただいたところもございます。

1 選択回答内容集計表

フェイスシート		総数	NPO・社団・財団法人	任意団体
活動期間	1 1年未満	0	0	0
	2 1年以上3年未満	7	5	2
	3 3年以上5年未満	12	6	6
	4 5年以上	25	8	17
	5 無回答	1	0	1

活動内容	1 自然保護・環境	4	1	3
	2 まちづくり	7	2	5
	3 高齢者	4	2	2
	4 障害者	7	1	6
	5 子ども・教育・子育て	4	2	2
	6 多文化共生・国際交流・協力	4	0	4
	7 市民活動支援・推進	2	1	1
	8 IT	5	3	2
	9 スポーツ・健康	3	3	0
	10 芸術	3	2	1
	11 その他	2	2	0

会員数	1 10名未満	3	0	3
	2 10名以上30名未満	13	6	7
	3 30名以上50名未満	10	5	5
	4 50名以上100名未満	5	2	3
	5 100名以上200名未満	8	3	5
	6 200名以上	4	3	1
	7 無回答	2	0	2

年間予算	1	10万円未満	4	0	4
	2	10万円以上 100万円未満	18	5	13
	3	100万円以上	19	12	7
	4	無回答	4	2	2

設問2	協働という言葉を知っていますか		総数	NPO・社団・財団法人	任意団体
	1	よく知っている	30	11	19
	2	意味はよく理解していない	11	5	6
	3	まったく知らない	3	3	0
	4	無回答	1	0	1

設問3	これまでに行政との協働の経験がありますか？		総数	NPO・社団・財団法人	任意団体
	1	ある	29	12	17
	2	ない	16	7	9
	3	無回答	0	0	0

設問4 (設問3で「ある」と答えた方) それほどのような形でしたか？ (複数回答可)

		総数	NPO・社団・財団法人	任意団体
1	共催事業を実施した	13	5	8
2	委託事業を受けた (委託金の交付)	8	4	4
3	補助事業を実施した (補助金の交付)	11	2	9
4	実行委員会・協議会などを協力して立ち上げた	10	4	6
5	指定管理者の指定を受けた	0	0	0
6	後援事業を実施した	8	6	2
7	事業提案をおこなった	1	0	1
8	事業協力 (スタッフ派遣・会場提供など) をおこなった	13	2	11
9	その他	5	1	4
10	無回答	0	0	0

設問5 (設問3で「ある」と答えた方) そのきっかけはどのようなものですか？ (複数回答可)

		総数	NPO・社団・財団法人	任意団体
1	行政から声をかけられた	13	5	8
2	自分たちから声をかけた	20	8	12
3	市報などで募集していた	3	1	2
4	他団体からの紹介	6	4	2
5	その他	2	1	1
6	無回答	0	0	0

設問 8 今後、行政と協働したいと思いますか？

		総数	NPO・社団・財団法人	任意団体
1	協働したい	37	17	20
2	協働したくない	3	1	2
3	わからない	5	1	4

設問 9 (設問 8 で「協働したい」と答えた方) 協働するとしたらどのような形で
おこないたいですか？ (複数回答可)

		総数	NPO・社団・財団法人	任意団体
1	現在自分たちがおこなっている活動を 発展させる	27	10	17
2	まったくあたらしい事業に取り組む	8	4	4
3	行政が立ち上げた事業に協力する	8	7	1
4	アイディアの提供 (企画提案) をする	6	3	3
5	自分たちが提案した企画を協力して 運営する	22	11	11
6	その他	3	2	1
7	無回答	0	0	0

設問 1 0 (設問 8 で「協働したくない」と答えた方) 協働したくない理由は
どのようなものですか？ (複数回答可)

		総数	NPO・社団・財団法人	任意団体
1	必要性を感じない	1	0	1
2	団体の主体性が確保できるか不安	1	1	0
3	責任が重く負担	1	1	0
4	企画書や報告書、決算など事務処理が 大変	2	0	2

5	今やっている活動を継続していくことで精一杯	1	0	1
6	協働にふさわしい事業かどうか分からない	1	0	1
7	興味がない	0	0	0
8	その他	0	0	0
9	無回答	0	0	0

設問 1 1 協働するとしたらどのような条件が整備されているとよいと思いますか？
(複数回答可)

		総数	NPO・社団・財団法人	任意団体
1	対等な立場で企画・運営ができる	34	13	21
2	事業経費を負担してもらえる	30	13	17
3	事務作業・打ち合わせスペースの提供、会場確保への便宜	29	12	17
4	広報協力を受けられる	34	16	18
5	スタッフ（講師など）を派遣してくれる	14	7	7
6	契約や事務処理など運営に必要なアドバイスが得られる	16	9	7
7	事務作業などを職員が手伝ってくれる	19	10	9
8	事業実施に必要なスタッフの研修をおこなってくれる	12	5	7
9	1 団体では不安だから他の市民活動団体と連携できるよう調整してくれる	15	9	6
10	自分たちがすでに取り組んでいる活動を支援してくれる	25	12	13
11	継続的な資金提供・事業協力が約束されている	21	11	10
12	その他	6	3	3
13	無回答	4	1	3

設問 1 2 行政以外で協働したい団体や組織はありますか？

		総数	NPO・社団・財団法人	任意団体
1	ある	35	14	21

2	ない	7	5	2
3	無回答	3	0	3

設問 1 3 (設問 1 2で「ある」と答えた方) あるとしたらどのような団体ですか？
(複数回答可)

		総数	NPO・社団・財団法人	任意団体
1	市民活動団体	27	10	17
2	企業	23	10	13
3	市民活動支援センター	25	9	16
4	その他	13	4	9
5	無回答	0	0	0

設問 1 6 今後行政と協働したいと考えているテーマがありますか？

		総数	NPO・社団・財団法人	任意団体
1	ある	32	15	17
2	ない	9	2	7
3	無回答	4	2	2

2 自由回答内容まとめ

【設問 6】 協働して良かった事を教えてください。

- ・ 公立高校・教育庁生涯学習スポーツ部・教育委員会の考え方で、生徒のやる気を起こさせた事と将来目標を立てられた事(学校側)・指導スタッフ・学校教員、それぞれの立場で統合協力が行えた事。
- ・ 活動上より広い範囲の市民と関わる事ができ、行政の姿勢を知る事によって今後の活動計画の立案とアプローチについて修正を図る事ができました。活動の幅を広げ深みを持たせる事ができて良かったと考えます。(他同様意見 2 件)
- ・ 資金的、人的援助が受けられた。
- ・ 多少、市民との協調性が取れたこと。
会場などの予約が取りやすい。
他の団体への後援、協力が取りやすい感がある。
- ・ 教育委員会のご協力により、市内の各学校にチラシを配布することができ、広く参加者を募る事ができた。
市報などでボランティアの希望者を募ることができた。
- ・ 学校開放事業の枠を超え、多数の市民参加型のイベント、日常活動が実施できる。
- ・ 共催イベントを行った際に、市報に広報が必ず掲載されたこと。会場の確保が容易であったこと。ポスター、チラシ等の用紙の提供、印刷に便宜をはかってもらったこと。イベント当日マンパワーの提供を受けたこと等が良かった。
- ・ 活動を支える人々が一同に会し、行政、市民、企業の連携がはかれたこと。
回を重ねるごとに受け入れ先会社との信頼関係が深まったこと。行政との信頼関係も厚くなったと思う。
- ・ 財団や行政の立場や行動が理解できた。

- ・各関係団体の方々と親しくなれました。
- ・①市の実情・課題・問題点と地域のシーズ・ニーズと課題を相互に理解し合えたこと。
 - ②「協働して良かった」という達成感・充実感が得られたこと。
- ・提案が少しずつ実現していること。
- ・住民へのピーアールと参加への安心。
- ・1. 財政的支援があることで、安定した運営ができる。
2. 情報が共有しやすい。
- ・事業は、NGO、JICA 職員向けのワークショップ(研修)なので、いわゆる一般的な協働とは異なると思うので、あまりよくわからない。
- ・お互いに理解しあえた。
- ・団体への信頼度が増し、良い宣伝になった。
より多くの人々にサービスを提供することができた。
協働によって、場所や設備なども使用させていただけたことで、大きなプロジェクトに取り組めた。
- ・アルコール依存症に対する行政(市)の理解度の向上。
- ・広報の面で協力を得られたこと。市が関わっていることで信頼が得やすい。
財政的な支え。
- ・行政が認めてくれている活動だという事が、モチベーションのアップにつながる。また呼びかける際の市民への信頼と安心につながり、活動がしやすくなる。
- ・自分達では出来にくい部分、例えば印刷、市報の利用等で非常に助かっている。又手続き等行政に関わる部分では、適切なアドバイスがもらえる。事業を行っていく際の視野が広がる。

- ・ 公共施設を利用できた。(学校など)
市報ちょうふに案内を掲載できた。
情報交流が増した。
- ・ シンポジウムや講演会等で、市の後援や社協の共催事業となった事で、市民の参加意識が出た。
市報や福祉の窓に参加呼びかけがあった事も良かった。
- ・ 我々の活動が公共的であり、社会的課題、解釈を意図している事が第三者から見て明確となった。
- ・ 備品などを揃えることが出来た。
- ・ 会場確保の点ではメリットがある。

【設問 7】 協働して困ったことを教えてください。

- ・ スケジュール調整に困った。学校行事の間を取り、指導員(団体 Top)派遣を行うので、定期的に指導が行えない点。
- ・ 協働事業であるが故の規制項目や、情報開示の限界、他の課との連携に関する認識の差による問題がありました。(他同様意見 2 件)
- ・ 逆に行政指導のように思われ、多少制約ができ、やりにくい部分があることも否めない。
- ・ 報告書(助成を伴う場合)の要求が度を越えて煩雑。
- ・ 委託事業を受けたことがあったが(2 件)、いずれも中途半端に終わった。その反省として、委託事業は「協働」というカテゴリーに入らないのではないかと考えている。
- ・ 直接、市民行動に限界を感じた。
- ・ 各人の考えの違いや、立場の違いがあり、調整をとった事。
 1. 個人情報管理の事情により、ネットワーク(連絡網)が作りにくい。
 2. 地域で関心の高い「安全・防犯」は警察、教育・学習は教育委員会となっており、市からはずれている。
 3. 行政側職員が地域活動に消極的(参加しにくい)。
 4. 市の情報公開に限界がある。→構想の段階での情報が入手しにくい。
- ・ 行政をあまり重要な部分に入れられない。
- ・ 行政側の事例が、毎年同様、同類なこと。
- ・ 行政と市民との考えに落差がありすぎる。
- ・ 行政の目指すところと、こちらの目指すところが必ずしも一致しないことがあった。

- ・特にないが、市民だけが対象になるという印象が強いこと。
- ・市民との窓口をどちらにするかが難しい。
- ・困った事ではないが、協働とは言っても、行政側ではなかなか意見が出しづらいのではと思える。どちらかというに出された案に対応する感があるので、積極的に考えを言って欲しい。
- ・手続きが煩雑になりやすい。→その後軽減された。
- ・ドッグラン自体は、東京都立公園内の施設であるため、施設の改善(例、日除け・水道の施設等)とドッグラン内活動(しつけ教室等)は全て東京都の承認が必要。
- ・報告書や決算書の提出が難しかった。
- ・制約があり、何かと不自由だった。独自性、創造性が活かされにくい。

【設問 13】 行政以外で協働したい団体や組織があるとしたら、それはどのような団体ですか？該当する項目にいくつでのチェックをしてください。その他の場合は具体的にお書きください。

【設問 14】 その理由を教えてください。

- ・小学生、幼稚園児に対して、テニス以外のスポーツ→運動能力開発を進めたい。いろんな多種スポーツを同期間に行えたら、子供達はスポーツ→体を動かす事が好きになるでしょう。

(市民活動団体・企業・市民活動支援センター・その他：教育庁)

- ・1団体では限界のある、より多くの市民とのコミュニケーションや、協働により可能になる他団体との連携、そして地域問題の解決の上でパートナー足りえる地元を中心とした企業とのコラボレーションなどを実現化するためです。

(市民活動団体・企業・市民活動支援センター) (他同様意見2件)

- ・相互に理解を深められる。

(その他：市内文化サークル)

- ・限りなく市民の生活範囲に定着していきたい。

そのためには、あらゆる団体と協働するべきだと考えている。

(市民活動団体・企業・市民活動支援センター)

- ・市民活動団体や市民活動支援センターと協働することにより、地域社会と連携が可能になり、講師、ボランティアの募集に役立っている。また公共の施設の利用が可能になる。

(市民活動団体・市民活動支援センター)

- ・まちづくりは、一 NPO 団体が行政と協働しただけで作りあげられるものではない。

さまざまな人々、団体、企業、行政が心を合わせ力を合わせなければ理想に近づけないと思う。

(市民活動団体・企業・市民活動支援センター)

- ・ボランティアスタッフの善意により運営されている小さな団体なので、今後の事業拡大計画を立てるのは難しい。

スタッフの高齢化もあり、今後の活動継続への不安は否めない。
(その他：具体的に考えていない。まだその段階にない。)

- ・今日の市民生活を支えてきた歴史があるから。
(市民活動団体・企業・市民活動支援センター・その他：神社・寺)
- ・当団体も自らの運営だけにとどまらず、様々な方々と接する事により、人間性を高める事ができると思います
(市民活動団体・企業・市民活動支援センター)
- ・地域のシーズ、ニーズ、課題、問題点を把握し解決するには、行政(市)だけでなく、関連する多くの団体や組織などと協働、共同、協同するのが効果的、効率的である。
(市民活動団体・企業・市民活動支援センター・その他：公共事業団体・公共施設：公民館・図書館・福祉団体・文化協会・警察・教育委員会・安全協会・防犯協会・消防署など)
- ・市民力の結集が必要だから。そのためには多くの市民との接点を持つこと。
(市民活動団体・企業・市民活動支援センター)
- ・住民であれば、個人、企業、学校等みんな同じだから。
(市民活動団体・企業)
- ・活動から見えてくる課題を解決していくために、上記両団体と情報の交換・共有および共同調査等をする必要がある。
(その他：介護保険サービス事業者調布連絡協議会・介護支援専門員調布連絡協議会)
- ・自分達だけでは解決できないことがある。他の団体のノウハウを教えてもらいたい。
(市民活動団体・市民活動支援センター)
- ・現在、「映画のあるまちづくり」の一環で、映画祭や上映会のバリアフリー化に協力していますが、私たちの協力している目の不自由な方向けの音声ガイドだけでなく、耳の不自由な方向けの字幕サポートも、その活動を専門とした市民活動団体と協働したい。また音声ガイドの製作や利用の発展性を考え

ると、日活・大映などの映画会社とは、より積極的な協働関係を築きたい。
また、市民活動支援センターとは、サービスの利用者への宣伝・呼びかけに、
より積極的な情報と協力をお願いしたい。

(市民活動団体・企業・市民活動支援センター)

- ・社会復帰を最終目的とするため、安心して働ける場を造りたいため。
(企業)
- ・企業とのパートナーシップが、社会の中での NGO の働きを伝えていくために
大切だと思うので。
(企業)
- ・協働することにより、今までどうして良いか分からず部分的にストップして
いたり、苦勞していた部分が前進する。角度の違う見方が出来る。
(市民活動団体・市民活動支援センター)
- ・協働により、効果的な事業を実施できると期待している。
(市民活動団体・市民活動支援センター)
- ・いろいろな社会との接点の中で、当事者が学び成長する。
また、障害以前のプライドを持っている当事者には、リハビリ効果が高く、
啓発や予防につながる。
(市民活動団体・企業・市民活動支援センター)
- ・他のドッグラン 管理、運営団体や目的を同じくする NPO 等との連携、情報
交換が有益になるから。企業との協働により、資金提供を受ける一方で、企
業の CSR の向上に協力出来る。
(市民活動団体・企業・市民活動支援センター)
- ・団体同士のネットワークを作り、情報交換、協力体制づくりができるから。
(市民活動団体)
- ・具体的なイメージはない。
(市民活動団体)
- ・1 例として無料相談所を開設した場合、当方としては毎日は出来ない。協力し

て参加する団体があれば良い。また、不在の場合は受付だけでもしてくれたら良いと思う。

(その他：パソコンの指導をしている団体)

- ・ 財政、人手、すべて大変です。活動するためにはどんな助けでも必要。
(市民活動団体・企業・市民活動支援センター・その他：とにかくこちらの事業に協賛して下さる団体、個人の方には助けていただきたいです。)
- ・ 地域社会において、地域の特色を活かした様々な視点からの行動は、地域生活を支え、育み、安全で豊かな地域社会を創生してゆくものとする。
この様な行動を認知して継承してゆくことのできる社会的な活動連携は、幼年期から高齢期に到るまで、包括的な活動基盤を構築することにより、社会的に持続的な意義を構築する。
(市民活動団体・企業・その他：高齢者介護に携わる団体や子供教育に携わる団体、環境負荷低減を促進する団体企業。)
- ・ 当グループは設立当初より、調布市社会福祉協議会のバックアップを受けて活動を継続している。従って社協が運営を担っている市民活動支援センターとは、協力関係を続けていきたい。
(市民活動支援センター)
- ・ 内容ともに民主的な運営をしている団体と協働したい。
企業はその目的が利益追求にあるので、紐つきでない資金援助なら受けたいと思うが、協働は無理かも。もっとディベートしたいです。
市民活動支援センターの方々の事務的能力の高さを成嘆し、期待しているが、一人一人のポリシーが今ひとつ見えないような気がします。
(市民活動団体：その団体をよく知ったうえで・市民活動支援センター・その他：内部に差別的な思考を持っていない団体となら。)
- ・ 地域(特に多摩川)の豊富な知識と経験、及び各方面の専門家の指導を受けられるから。
(その他：NPO 多摩川センター)
- ・ 市民団体は私達の活動を支援し得る活動をしているか、一緒に活動出来る団体との交流、協働をしていきたい。企業は市民活動支援をしている、或はしようとしていたら支援を仰ぎたい。

市民活動支援センター、社会福祉協議会には今までも色々お世話になってきているが、今後も協力をお願いしたい。

(市民活動団体・企業・市民活動支援センター・その他：社会福祉協議会)

- ・市内の企業の方へ、直接には本来の企業の業務に結びつかない活動でも、市民と共に活動し、名をあげることで企業のイメージアップにつながるはず。小企業、商店などについては、共に活性化の道を考えていきたい。

(企業・市民活動支援センター)

- ・世代を超えて、家族、特に子供と老人が集える場の提供が重要になってくると思います。同じ目的、意義に賛同してくださる団体と協力ができれば幸いです。

(市民活動団体・市民活動支援センター)

【設問 15】 貴団体の強みや工夫、アピールできることを教えてください。

- ・テニス指導に関しては、国内でも TOP 選手を育てていた(国代表選手育成・多数輩出)ので、初心者から上級までの指導方法を指導出来る。又、夏キャンプでは、テニスの技術のみでなく、心の豊かさ、想像力向上など、1人1人の良さを発見させ、自信をつけられる事に取り組んでいる。
- ・調布市の地域情報化基本計画を受け、市民による計画の実現団体として活動をしていることにより、行政との連携や関係諸団体との連携において役割を發揮できると考えております。
- ・幅広い年齢層が理事として関わり「世代を超えた交流」を本来の目的としているため、市民同士の協働とコミュニケーションの活性化について役立てると考えております。
また、他の市民団体の運営の補助を行っていることから団体同士の連携にも役立てると考えています。
- ・市内の多くの事業者が情報を提供し、それ以外のまちの情報発信や市民同士の掲示板を運営をしていることから知りたい人に知りたい情報が行き届く為に役立てると考えております。
- ・すべて自分たちで運営できる。集客力がある。
- ・文化として考えると、誰でも興味が持てるものであり、本来、調布にはあるべきものであるがゆえ、限りなく拡大されるものと思っています。
- ・理科実験、自然観察(特に天文教室)事業の推進に特化しているため、全国的にニーズがあり、文部科学省生涯学習推進課や、各地の教育委員会の協力が得られている。
特に調布市では本会の本部事務所があることで、行政だけでなく、市民活動団体との連携もスムーズにしている。
- ・地域住民の多数参加。高齢者と子供、若者の活発な交流。
- ・常時活動している会員達は限定されてはいるが、各人がそれぞれ高い志を持ち、自律した社会人で個々の各分野にわたる部会活動を展開している。この

ことは当会が多彩な分野に目配りし、人脈を拡げ、ネットワークを作り上げつつある団体と言えよう。

- 各個人の得意とするパートを 100%引き出すこと。
やりがいのあることと思う気持ちをおこしつづけさせること(評価し、ねぎらう言葉かけを頻繁に。)
- 芸術家を中心にした集団である。
- 36年の歴史を持ち、OB 含め 400名の会員のネットワークがあります。各会員が異業種で様々なアイデアを持ちよる事ができる。
- 1. 地域に密着していること。
2. 構成員(人数)が非常に多いこと。
3. 熱心な人材が多いこと。(但し、みなさん多忙ですが。)
- 統合防災訓練参加など、機会があれば積極的に提案し、小さなことから(取り組みやすいところから)実現していくのが現実的な協働だと考えている。最近はいろいろな団体(Vo、グループ、自治会など)から呼んでいただいています。身近なところでの活動をテーマにしています。
- 組織力、行動力、住民の協力。
- 1. 7年間、①相談活動を継続してきたこと。②事業者調査を市民の目線で行い、冊子としてまとめている。
2. 上記の活動を通して見えてくる課題を毎年整理し、「課題の提起」として市および関係団体に提出している。
3. 月 1~2回、その時々に必要な研修を行い、会員の力量を高めている。
4. これらの活動は社会的にも注目され、定着しつつある。
- ワークショップや研修運営の経験が豊富なスタッフが数名いる。「アフリカ」の事例に詳しい。国際協力関連のネットワークが広い。
- 人材が豊富。行動力がある。
- 調布映画祭のバリアフリー化の一躍を担う音声ガイド(副音声)づくりには、多

くの市民ボランティアの参加機会を広げることができます。また、上映会や映画祭のバリアフリー化によって普段交わることのなかった障害者と健常者が、ひとつの(同じ)感動を共にする体験は、多種多様な人々を受け入れる豊かなコミュニティづくりの新しいヒントにつながると思います。

- ・ 所長を中心としての“マンツーマン方式”による、生命の尊厳への問いかけ“「体験談」に始まって「体験談」で終わる”がキャッチフレーズとなる。
- ・ 1800坪の自然豊かな敷地、ボランティアコーディネート力、実績。
- ・ 市の主催したキャンプ地事業の主旨を引き継いだ事で、行政側の窓口と、当会への役割がはっきりしている事。
- ・ 1. 既存活動団体の会長クラスの方を運営委員及び役員にお願いしたので、各団体と横のつながりが持ちやすく意思の疎通がしやすい。
2. 不審者対策のパトロールの組織の確立、地域交流のためのコンサート、クリーン作戦の実施計画、広報誌の発行、また設立時から事務局を持っているなど、それぞれの部が非常に活発に活動している。
- ・ パソコンを使える人の集まり。(会の連絡は初期からメーリングリスト)多彩な能力の持ち主が集まっている。
- ・ 多くのリハビリプログラムがある事で、得意、不得意がでる事も、良い仲間づくりになっている。興味のないリハビリも、皆でやれば面白くなる。出来なかった事が出来るようになり自信につながる。→自立に近づく。低コストでできる。
- ・ 単なる愛犬家の仲良しグループではなく、犬に係る社会的課題解決と、犬を通した社会貢献の志が明確であり、かつ実行力がある。
- ・ サロンの参加者の制限がない。
メンバー同士の意見を尊重し、話し合いを大切にしている。
- ・ お風呂の衛生管理に関する知識。
- ・ 植樹のノウハウを提供出来ること。

ポット苗を通じて、土地さえあればどこにでも植樹が可能です。

- ・ 財政基盤が比較的しっかりしている。
会員が多く、ニーズがあがってきやすい。
会のミッションがぶれない。
- ・ 会員同志のたすけあいの活動、サービスを直接提供することにより、福祉の現状、制度等を、よく理解することができる。またそこから見えてくる問題等を、行政へ提言することができる。
- ・ ①現在は小さいが、具体的に仕事が出来れば参加者は拡大するものと思う。
②その核になりたい。
- ・ 市民活動に行政の協働は不要と考える。市民活動の特性が縛られる。我々NPO活動の環境作りに行政は関与すべき、(例：スポーツ施設の整備など)
- ・ 前身の団体が 30 年活動してきたこと。
すべてをクリアー、透明にしていること。
行政からの指導、ガイドラインを実直に守っていること。
- ・ 建築技術の在り方を追求し、継承する為の活動を行う組織としての特色を活かし、最近頻発する高齢者を対象とした悪質な詐欺行為の撲滅、高齢者の生活環境を建築的に見直し、安心して生活できる建築環境づくりへの取り組み。小さなエネルギー活用から環境負荷の少ない豊かな生活環境づくりや、「木育」子供達が木と触れ合い、木とともに生きる大切さを、体験・理解を深める活動。
日本古来から伝統的に継承されてきた建築技術と日常生活の設え、地域資源の循環活用を、地域環境保全とともに、安全で安心できる身近な環境づくりとして具体的に提唱する。
- ・ 自分たちでできるように工夫し努力するが、どうしてもできない場合は、他の団体や法人の力を借りて、運営する柔軟性とネットワーク。
- ・ 完全なボランティアグループである。自分の「出来る事」を「出来る時」に「出来る範囲」でやる考えに徹している。会則性ないが「約束した事だけは守る」のがルール。会費もない。統制する事もなければ批判する事もない。そ

れが 10 年以上続きかつグループが拡大している秘密である。

- ・ 障害者(児)問題を(－)として考えないで、これからの市民社会を活性化させる(＋)として考え、活動していること。
イベント開催など具体的な活動には良い働き手がいつも与えられること。
- ・ 自然の学習サポートを通じ、学校教育の一端にふれることができ、多少なりとも教育の向上に寄与できる。
- ・ 高次脳機能障害に関する情報の蓄積と、専門家(医師)が顧問なので、情報提供や相談を受けることが可能。又、必要なアドバイスも出来ると思う。
- ・ 心の病を持つ人への関わり、心の病の人が増え続けているこの数年、自殺者が 3 万人を超え、国も本格的に自殺予防対策に取り組んでいるが、行政、医療、市民が連携することが大切。心の苦しい人、SOS を出している人に周囲が早く気づき、その苦しさを聴くことでかなりの効果があると専門家も評価している。当団体は 5 年前の設立時から聴くこと、SOS を出してもらうことを目的に活動している。
- ・ 強みはありません。(質問の主旨に反しますが。)
当事者も保護者(家族)も高齢化し、エネルギーがありません。だからこそ、今後につながる何かをしなければとのアセリがあります。
- ・ ①老若男女を問わず参加できる。
②パソコンの活用以外に、トラブルや専門的な対応が必要な時は、専門家の派遣も紹介可能である。

【設問 17】設問 16 で「協働したいと考えているテーマがある」と答えた方にうかがいます。差し支えなければその内容を教えてください。

- ・ 私達はテニス専門化ですので、
 1. 中・高年、特に 60 歳以降～80 歳の方への初心者、初級～中級迄のテニスレッスンを週 2 回程、健康作りで行いたい。
 2. 3 歳、4 歳～8 歳迄の基礎運動能力開発として、他種目運動を取り入れた kids テニスレッスンを行いたい。出来れば調布市内の保育園、小学校への各週指導 or 月 1 回指導希望。
- ・ 生涯学習・市民団体情報のシステムの市民にとっての利便性向上のための調査・研究。(他同様意見 1 件)
- ・ 理科実験、自然観察(天文教室)を親子だけでなく、生涯学習の中の一分野となるよう努力したい。
- ・ 地域住民の日常活動の一部門を担当する事業を！
- ・ 市役所 7 階にある都市整備部まちづくり推進課から「都市計画マスタープラン」の見直しについて、一緒にやりたいとの申し出があり、現在どの様にしていけるのが良いのか、お互いに研究中。
- ・ 環境ボランティアへの啓発事業の展開、ゆるやかなボランティアマインドの普及、特別の人が行うのではなく、多数の人々が少しずつ関われるボランティア活動をどう伝えていくか。

できるときに、できる人が、できる分だけ、がボランティアの原則です。
ボランタリーな気持ちを一人でも多くの人を持ち、相互に関われば、行政への協力もスムーズに行われると思います。
その橋渡し役が市民活動センター。市民にとって敷居の高い行政窓口とは違う、こちらを向いてくれる窓口だと思います。まだまだ行政になじまない市民も多いと思うので、まず行政との協働の前に、ソフトランディング的な事業を支援センターで用意しては？
拘束されずに働くことの楽しさを味わうことから始めては？
人の役に立っていること、社会の役に立つことをしている誇りは人を輝かせます。行政との協力はそこから先のことではないでしょうか。

- ・ 布田天神、月例祭の新事業
深大寺、(だるま市・節分)の新事業
旧大町小学校の芸術創造の現場計画祭
- ・ 安全、安心まちづくり。
- ・ ①市(警察、消防、安全協会、防犯協会などを含む)との防犯対策…できるだけ目に見える活動をしたい。
②市民活動支援センターと協働して、地域コミュニティへの多様なアプローチ…ボランティアまつり、健康づくり、情報交換など。
- ・ 防災ネットワークを作る。
- ・ 防災訓練、広域非難場所での災害時、住民、行政、消防、警察等の組織作りと実践。
- ・ 介護保険サービスや一般施設福祉サービスに対する市民の満足度調査やニーズ調査。
- ・ 文化的な事業の展開。地域の安全(子ども)の確保。
- ・ 「映画音声ガイドボランティア養成講座」
調布市や近隣の市民を対象とした講座で、映画音声ガイド(副音声)の台本づくりを学んでもらう。現在、シティライツが受託している上映会や映画祭の音声ガイドづくりを、ゆくゆくは地元市民ボランティアと地元の視覚障害者の協力によって行えるよう、きっかけをつくりたい。
- ・ 1ヶ月 20万円前後の収入(個人)が得られる企業の設立。
- ・ 子育て支援や、軽度発達障害の子ども達のケアなど。
トータル的に見たファミリーケア、居場所づくり。
- ・ アラビア体験授業を全小学校に出前講座をする事。
- ・ 今、協働の事業をかかえており、今後も活動していきながら、その都度考えていきたい。

- ・ 団塊の世代の定年期を控え、定年後の活動の場を作ること。
- ・ 調布市における、高次脳機能障害者の実態調査。
現在の活動内容(高次脳機能障害者支援には現在、国も都も検討中である。)
「地域における高次脳機能障害者のグループリハビリと啓発」
研修の企画実施。普及啓発。
- ・ 行政が開設する各ドッグランの管理運営。
飼い主のマナー向上に資する犬のしつけ教室の共催。
老人ホーム、学校への犬訪問。
わんわんパトロール拡大、組織化。
捨犬対策。
- ・ お風呂の衛生管理に関する調査、指導、対策実施。
- ・ 電車の経路が地下化するのにおいて、土地の空き地に植樹が出来ればと考えております。
樹は地震、災害に強いふるさとの木、(深根性、直根性のしい・たぶ・かれなど)です。
- ・ 宅老所の立ち上げ、運営。
- ・ センターなどにパソコン無料相談所を開設したい。
- ・ とにかく 10 月からの活動を軌道にのせること。
- ・ 「木育」：子どもから大人まで、木とふれあい、木に学び、木とともに生きる活動→環境問題を、感性に訴えた子供教育視点から、日常生活環境の整えまで包括的に考える活動。
「予防介護」を温熱環境や耐震性、建築技術的な手法からの、生活の安心安全・豊かさと快適さの提案から促進するため、医師・ケアマネージャー等との専門性を有する異業種連携の提唱。
- ・ 市民が行政の下請けになるのではなく、取り組もうとする課題を徹底的に討論して、そのテーマが本当の意味で調布市民の幸福追求に資するものであるようなテーマであれば協力したい。

- ・ 高次脳機能障害に関する相談事業、リハビリプログラムの提供と場作り。
- ・ 行政は法的な相談や手続きを行うが、心の苦しき、悩みをじっくり、しかも当事者と対等な関係で耳を傾けるには、時間的にも当事者にとっては必ずしも適当ではないという意見を多く聞いてきた。まだしも関わり方(傾聴など)を学んだ市民の方がより当事者に寄り添えるのではないかと、これ迄の活動で実感している。
- ・ 具体的に書けるところまで行ってません。
市民に協力していただいて、当事者が働ける場を生み出したい。
- ・ 老人と子供ー古き良き無形文化の継承
ー次世代へ伝えたい、老人の体験・遺言ー

【設問 18】 市民と行政の協働について、どのようなことでもかまいませんので、お考え、ご意見をお聞かせください。

- ・ 調布八ヶ岳寮を使用し、他種目との共同事業「子供達の、スポーツを通して体と心の豊かさ作り」を行いたい。
上記(設問 17)の 1 と 2 について、市営コートの優先予約(2 面～1 面)週 1 回でも可能であれば、高齢者の体力向上事業の一環として、テニス部門が出来るのではないのでしょうか。
- ・ 今回の「協働」というテーマは NPO 法人の位置づけ上、大変重要なものだと考えます。
調査結果のフィードバックは各団体ごとに分析し提供していただくようお願い致します。(他同様意見 2 件)
- ・ 非常に難しい問題であると思いますが、まず行政がどれだけ受け入れることができるかということが第一歩でしょう。
市民がアイデアを出し、それを具体化し、行政が敏速に対応し、互いのメリットを生み出せるか・・・？
- ・ 行政(調布市)の方でも協働事業を推進していることを、今回初めて知りました。市民活動支援センター独自の活動として協働事業を推進していくと同時に、行政と市民活動団体とのパイプ役にもなって頂きたい。
市民活動団体、NPO などと当センターの協働、三者の協働事業など、三者の連携も選択肢の 1 つになればと思っております。
- ・ 計画は協働で実施は団体にまかせる。
施設、資金、人材の提供は行政で、その効率的な運用は団体で。
- ・ 「協働」という言葉が言われ始めて何年かたつが、言葉だけがひとり歩きしていて、その実態が目に見える形となって目の前に現れて来ていない。
我々としては、活動の内容から行政の協働がより重要になっていくので、個々のプロジェクトを行政の担当者と慎重に誠意をもって取り扱い、協働の実を積み上げていきたいと考えている。
- ・ 私達はいつでも人を待っています。

- ・ 設問 8 で「協働したい」と答えたが、同時に「したくない」とも思っています。行政は権力であり、個々の市民の力は小さい。市民活動が行政に向けて媚び、目的を取り違えてしまう可能性が心配。あるいは行政の言いなりになって、下請け業務に携わることで権力の一角に加わった気分になる市民が出てくるのも変なものです。特に行政業務を市民がボランティアで行うことはとても変です。公務とは行政の仕事、公務員は給与を得て、プロとして行政に携わるのは当たりまえ。

ひとが心より奉仕をするのは良いことです。ただしこれを法、制度の枠で固めてしまうのに疑問を持ちます。

市民の芸術について、アマチュアとしての芸術はボランティアに似合いますが、プロとしての芸術は仕事(業務)です。趣味と専門家は立場をはっきり分けて適材適所に配備して、初めて社会貢献が可能となりましょう。

- ・ 協働を進めていく事により、市民、行政、企業との垣根を越え、より相互の理解を深める事により、弱点を補ったり、今までにないアイデアが生まれたり、今以上に暮らしやすい所になるのでは？
- ・ 協働の目指す地域社会の実現、安全、安心なまちづくりについて。
 - ①市民と行政の役割を分担するだけでは、協働ではない。協力し、同じ場面で一緒に活動するのが基本である。(市は仕組みを作るだけでなく、実践でも協力する事。)
 - ②協働推進の基盤について：市職員は各自の職責範囲で最大限の努力・協力されているが、地域では行政の全般に関わる事が多いので、市職員と市民とをコーディネートする機能・人材を必要とします。
文科省でも、総合学習でのコーディネーター養成に繰り出している。
 - ③若い世代の地域活動への参加、団塊世代の地域活動へのなじみ方など「協働推進会議」などを設けて、市民と行政とが協働して取り組めると良いのですがいかがでしょう。
- ・ 行政側プラットフォーム・ホーム(庁内横断の窓口)と市民側プラットフォーム・ホーム(市民の声をまとめる場)ができて、初めて対等な協働ができるのではないかと。
市民側がどうまとまって市民力を高めるかが一番大事な課題だと思います。
現状では余りにも市民力が低く、行政主導でなければ協働の形すらできない。今、市民側がまとまる努力が焦眉の急です。
- ・ 行政の形だけの参加ではなく、現場に入った事業が必要だと思ふ。

- ・ 協働の意味を理解する難しさがああり、市民に浸透しにくい。

協働するには、団体として核となる複数の人材を常に確保し、活動を継続させる力をつける必要があり、そうなると入会希望者が少なく、人材を育成することの難しさがある。
- ・ 行政が考えているテーマや「わく」から始めるのではなく、「何をするか?」「何のために?」という話し合いを重ねて事業を行っていくことが重要だと考えます。

ともあれ、少しずつでも始めていくことで、改善されていくものだと思いますので、がんばって下さい。
- ・ 行政と打ち合わせをしても、どこに向かって発言しているのかわからない。市民の立場でなく市庁内部に向かっての発言、ボキャブラリーが多い。(例えば、同封の資料も役所言葉でまとめられていて実感がともなわない。)
- ・ 私たちの 5 年間の活動から「市民と行政の協働」で痛感するのは、ビジョンを話し合って、できるだけ共有化することと、間の溝を埋める努力をすることが一番大切だということです。市民(ボランティア)と行政が、お互いに、当然この問題は相手サイドで進めるべきだと考えて、それぞれ活動している間に不信感となって折角の「協働」がうまく行かない。市民サイドは「ボランティアでやっているのに」という意識が根深くあり、行政サイドは「機会を提供してやっているのに」という意識がどうしても潜在的にあるように思います。

こうした立場の違いをカバーすることが文字通り「協働」の狙いですから、出発点でのサービス(テーマ)に対するビジョンと分担を明確にしたいと思います。

「もう疲れた。自分のペースでやりたい。」とならないためには、「大変だったけれど、やって良かった」というお互いに達成感のある「協働事業」として、次のステップにつながるものにしたい、そう願っています。終わった時点での、反省点の共有化も大切なことです。
- ・ 「いばしょ」立ち上げを行政側に話した折、素早い対応と協力に関して、福祉行政に関する質の高さを感じつつ、現在は感謝している。10月施行に向けて、着々と実績を双方(行政側とNPO側)で積み重ねている段階。～現在進行形状態～

- ・ 団体の独自性を活かせる形でのサポートが良いと思います。
 ニーズのある活動をスタートすることを考えると、やはり立ち上げと継続するのにかかる経費のサポートが一番力になると思います。
- ・ ①協働に値するテーマかどうかという事。
 ②自主財源を市民側が確保しているかどうか。
 ③あくまでも市民主導型で、協働の際に行政側に、～してもら、それはあっちの仕事だという依頼心が市民側にあまり強くない事。
 以上のような状況が作る事ができれば、継続した活動になりやすいかと思
 います。
- ・ 一番大事なことは、行政側も積極的に意見を述べて欲しいこと。また協働
 先の行政の中でも、こんな場合は行政内部の他の協力を得てなど、幅広い体
 制が欲しい。(つまり、わくがあるのは分かるが、協働先の出来ないことがそ
 こでストップとなってしまう事のないように。)
- ・ 行政と市民が協働することは、小回りのきかない行政と、即実行に移せる
 市民の、それぞれの立場の理解や、情報交換から、柔軟な企画や立案が可能
 になる。
 税金の使途にも活かされる。
 地域の活性化になる。
 地域福祉が発展する。
- ・ 行政はNPO活動のフリーライターになるのではなく、実費等適正な対価を
 NPOに支払う「有償ボランティア」を積極的に導入して頂きたい。
 また活動資金獲得の為のサポート(非営利事業活動の支援等)をお願いした
 い。
- ・ 行政側のセクション制をゆるやかにし、新しい発想を盛り込んだ企画など、
 提示して欲しい。市民が発案しても、なかなか具体的なものに結びついてい
 かない現実があり、意欲が湧かないこともある。
- ・ 行政が協働ということに慣れていない気がする。新規事業があっても、ゆ
 うあい福祉公社や社協しか事業提携先を考えていないようだ。
 私たちの方が、より資金的にも安く、効果が上げられるのに……。形だ

けのプレゼンを開催されても困りますが・・・。

- 私の NPO としては、安心してパソコンのことを相談できる地域の核となりたい。
そのためには、ボランティアで参加出来る人の集として行きたい。
講習だけではパソコンはうまく動くとは限らず、初歩的なことで挫折する人が多い。出張指導で解決出来る。
- この様なアンケートは 16 年 6 月にも実施されたが、何に役に立ったのかその説明もなく、屋上屋を架すに等しい。
行政は調査やアンケートを行ったら、問題解決と判断出来るだろうが、真の実態を知る必要があれば、直接現場(対話)で把握すべきと思う。
この種のアンケートは電子メール(2 本建てでも可)でも流すべき。手書きにどれだけ時間がかかるか理解すべきです。ペーパーレスについてご配慮下さい。
- この移動サービスについては、社会のゆがみが顕著にせめぎあっている場の様に思えます。タクシー業界も本当に大変だし、移動が困難な人々は増す一方です。我々の様なボランティアからあがってきた団体は、安全、サービスの高上など万全をつくしたいのですが、財政の問題は大きく立ちはだかっています。やはり国政レベルで大きな改革が必要なのでは。
- 地域社会への認識は低迷し、個々の利得や身勝手な理由優先に起因した社会的問題事件が新聞報道を賑わしている今日、自らの日常活動もある種同様な理由による活動に支配されているように思う。
かつて建築職人の技術は、地域社会に必要な生活を支える技術として発生し、必要の重要性により技術の発達発展が促進され、継承、伝達からの地域社会の文化を築き、地域社会のみならず、国の文化を担う技術として認知継承されてきました。
これは個人的な技能が優先された結果では無く、技能を支える地域社会の様々な分野との関わりなくしては、技能の社会的存在はありえないことを示しています。
今日の社会では、情報が優先され、上記のような文化的継承はその存在すら、社会的な必要性の範疇では無くなりつつあります。
多様化する社会変化のなかに、生活技術は、根源的な現象解決から、異種専門家集団による、広範な業務連携が必要とされています。
日常性の中、このような連携は営利を超えた社会的な必要を支援する組織的

な活動に負う所があると考えます。

社会的な専門性の連携を促す協働に期待したいと思います。

- ・ 今まで具体的な協働活動をやったことがないので、すぐには思いつきませんが、やる際に行政側から細かい制限はくるのは困ると思います。会場の提供、ご紹介いただけるのは助かりますが、細かい制限(例えば、飲食禁止、販売禁止など)が多いのは、活用しにくいので、その団体、組織の活動内容をご理解いただき柔軟に対応していただきたいです。

市民活動支援センター独自の HP かブログ、または広報誌などを発行し、あくろすの施設を使ったイベントの広報を載せるようにして欲しい。

あくろすの施設を利用する場合、駐車場代が無料になるとか特典が欲しい。

- ・ 当グループの活動は本来、国際交流協会 CIFA が力を入れて行うべき事だと思う。市の行政との結びつきで CIFA が存在する以上、CIFA が協力を行うべきで、ボランティアのグループが出しゃばるものではない。

行政の中でも、CIFA の役割を理解していなかったり、存在すら知らない場合がある。これは CIFA の運営が一部にかたよっている事によるのかもしれない。

今迄行政との関わり合いは、健康課から検診の際の通訳の検討を依頼されたり、生活福祉課から生活保護を受けている外国籍市民の就労のための日本語指導を依頼された事があり、その場合は前向きに対応している。本来は CIFA がやるべき事だが、規則にしばられ出来ない様だ。

- ・ 「ボランティアまつり」などを通して、支援センターの具体的迅速な活動に感謝しております。しかしそれがともすると具体的活動の実施に上すべりして、何のためにその活動をするのか・・・という思考の深まりに欠けることがあるようにも思います。強者が更に強くなり、弱者が更に痛めつけられるような最近の日本社会の動向には、しっかりとした批判を持ちながら対処していくべきかと思えます。

私の願いは、ある若者がつぶやいたように、「調布市がスウェーデンのように、コスタリカのようなになれば良いね。」ということです。特に私達に取り組んでいる障害者・児の人権はまだまだ制限されています。

市民と行政が調布市でも最も弱い立場にある人を、子供達目線に立って「共に歩む」市民全体の福祉を高めたいよう望みたいと思います。

「ために」ではなく「ともに」の思いで行政も市民も寄り添い前進したいと思えます。

- ・ 行政と市民(企業)との協働事業として、いわゆるジョイント・ベンチャーがあるが、これがしばしば失敗する理由は、寄せ集めで真剣に責任を取る人(企業)がないからである。従って行政との協働事業を行う場合も、立場は対等であっても、責任の所在と根源ははっきりさせておく必要があると思う。
- ・ 協働するテーマを募り、選定した上で参加する団体を募集する。
- ・ 行政・医療・市民(ボランティア)がそれぞれ出来ることで連携するのが、結果的に市民のためになると思う。
- ・ 市内の営業不振で閉まっている店舗などを、市で借りあげて、場を提供してほしい。
 小さな場でも、市内に点在しているところを活用したい。(交通の便が良いところが最善ではあるが…。)
 小さな作業所、食品店、学習の場 etc。
 ボランティア、家族の力で、障害者への仕事の間、学習の間、やすらぎの間を作りたいと考えている。
- ・ 市民の要望で行われる活動の方が、行政主導で行われる活動よりも、重要で長続きすると思います。
 「民主主義とは?」「民意の発場とは?」永遠のテーマだと思いますが、市民活動の発展のために、市民の側に立った行政の援助をお願いします。
- ・ このアンケートはむずかしい